

社会に「信任」をつくる

一世代を超えて助け合う地域づくりのために一

牧野 篤

(大正大学教授／東京大学名誉教授)

**基本的視点：「はまる」
寄り添い、支える
Compassion
そして
Generativity**

1. 問われていること

社会は子ども・若者にとっては怖いものであり、信頼できないものとして感受される

彼らにとって安心して身を委ねることができるのは、家庭しか残っていないが、自尊感情を調達できる場所ではない

学校は、制度上、相談でき、助けてくれる人がいても、安心できる場所ではないが、学校での評価によって自尊感情を調達している

地域社会にいたっては、安心できず、相談もできず、援助もない場所である

もはや逃げ込む先はインターネット空間だけだが、そこでも相談できる人、助けてくれる人はおらず、孤立している、ただまったりと安心していられるのみ

この社会とその未来は「信任」に値するものなのか

「ふるさと」とは何か：

歴史・文化・偉人・物産・風土・・・・

**「ふるさと」を問うことは
私たち自身の社会における在り方を問うこと**

子どもにとって「ふるさと」とは？

このことを考えると社会の在り方が新たにとらえられる

2. 語りあって当事者になる

「学び」と「人づくり」を一つなかりに

： 島根県益田市「人が育つまち」「人が輝くまち」

益田版カタリ場の種類

小学校カタリ場

小学生 × 高校生



「思春期」を終えた高校生から、
これから「思春期」の小学生へ

- 卒業前の高校3年生とこれから中学生の小学5-6年生によるカタリ場
- 小学生が、中学・高校生活の未来のイメージを描くことができる
- カタリ場を受けてきた高校生は、学業生活を終える最後に、自分が語り手として、小学生に語る

中学校カタリ場

中学生 × 地域の大人



「挨拶」の関係から、「相談」の関係へ

- 中学校区の地域の大人と中学生によるカタリ場
- 公民館と連携をして、地域の担い手がカタリ場に参加
- 地域で会う機会があるからこそ、しっかり関係をつくり、その後の地域での活動づくりのきっかけへ

高校カタリ場

高校生 × 企業の大人



ちょっと年上の先輩と、
ちょっと先の未来を描く

- 社会人の若手や大学生と高校生によるカタリ場
- 市内企業と連携をして、若手職員がカタリ場に参加
- 住んでいる地区を超えて、多様な大人との繋がりがりづくり、活動づくりのきっかけへ



10 カタリ場 /

キャリア教育、

「どんな人になりたいか」
を考える。

地域の大人 × 中高生

事業成果① 生徒が自分を肯定し、未来へ明るい希望を持てるようになった



根拠2

→事後アンケートにおいて、多くの生徒が自己を肯定的に捉える回答をしています。また、「自分によいところがある」と回答した生徒の割合は、ライフキャリア教育の積み重ねにより3年前から大きく増加しました。

2023年

生徒事後アンケート

(回答数591)

自分にはよいところがある

73%の生徒が**そう思う**と回答

(とてもそう思う106名+ややそう思う326名)

何事も前向きに挑戦していきたい

87%の生徒が**そう思う**と回答

(とてもそう思う298名+ややそう思う217名)

自分の可能性を信じていることができる

72%の生徒が**そう思う**と回答

(とてもそう思う127名+ややそう思う297名)

自分の気持ち次第で、
置かれている環境をよりよくできる

76%の生徒が**そう思う**と回答

(とてもそう思う274名+ややそう思う277名)

Copyright 2023 Yuta-lab. All Rights Reserved

11

公民館を拠点とした、中学生地域活動チーム



【 北 仙 道 地 区 】
陽光会



【 豊 川 地 区 】
とよかわっしょい



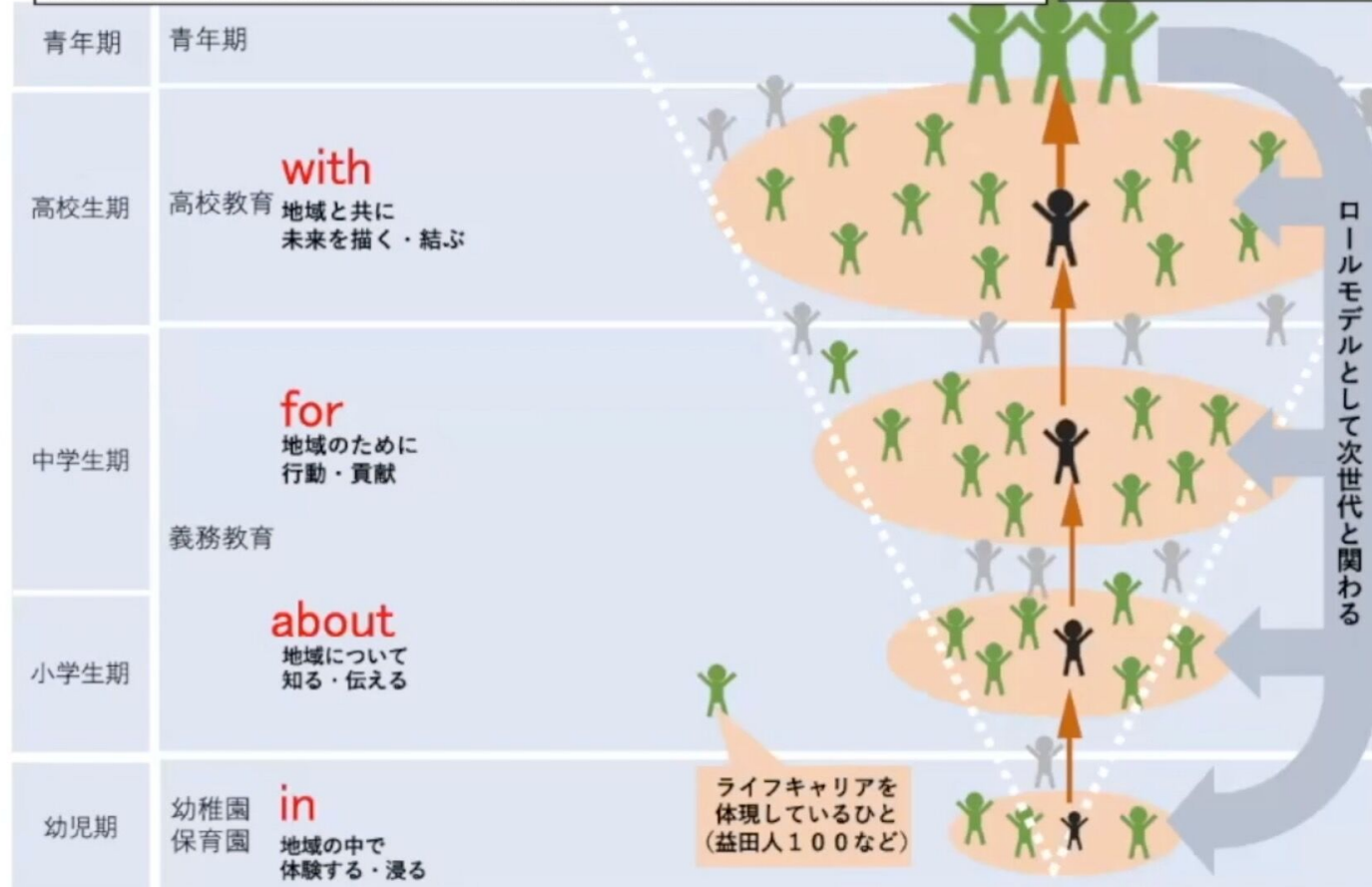
【 匹 見 3 地 区 】
匹中会

「益出入100」を軸としたライフキャリア教育の流れイメージ図

○保幼・小・中・高など、すべての年代を通じて、活動の軸に「ライフキャリアを体現しているひと（益田人100）」との出会いを位置づけるプログラム。
○子どもたちが、各年代で出会いを積み重ね、出会いの輪を広げながら、目指す姿を達成する。

【目指す姿】

○日々の目標に対し、能動的に生き、自らの可能性を広げることのできるひと



3. 人生100年時代の到来

2007年生まれの子ども達の予測寿命中位数=107歳

日本人の平均寿命=男性：81歳 女性：87歳
死亡最頻年齢=男性：87歳 女性93歳
(2016年)

健康寿命=世界で最も長い

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

-
- 人口遷移250年間の推移**
Demographic transition <250 years trend>
- 明治維新：
Meiji Restoration
- バブル経済：
Bubble economy
- 現在：Present
- 19th century model
- 21st century model
- Over 65
- Age 50-64
- Age 15-49
- Under 14
- 1868 1878 1888 1898 1908 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020 2030 2040 2050 2060 2070 2080 2090 2100 2110
- 100%
- 80%
- 60%
- 40%
- 20%
- 0%
- 学校制度はこの時代に有効
- 現行の社会保障制度はこの時期に作られた
The current social security systems developed

「標準形」の時代

「質的多様性」の時代

Source: Sensus, Okazaki estimate, National Institute of Population and Social Security Research 2017 estimate © T Hase

© T Hasegawa RIFH. Japan

UN Estimate2017

**少子高齢人口減少社会
から
人生100年社会へ**

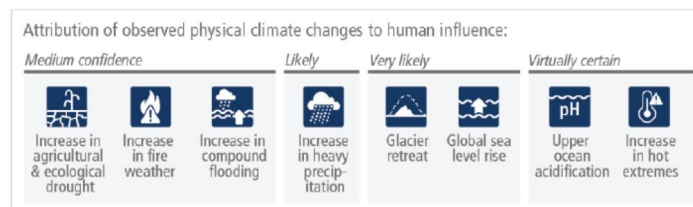
**高齢者への対応から
子どもたちを主役に
持続可能な社会をつくる**

4. 転換点の社会

日本社会はいま、転換点にある

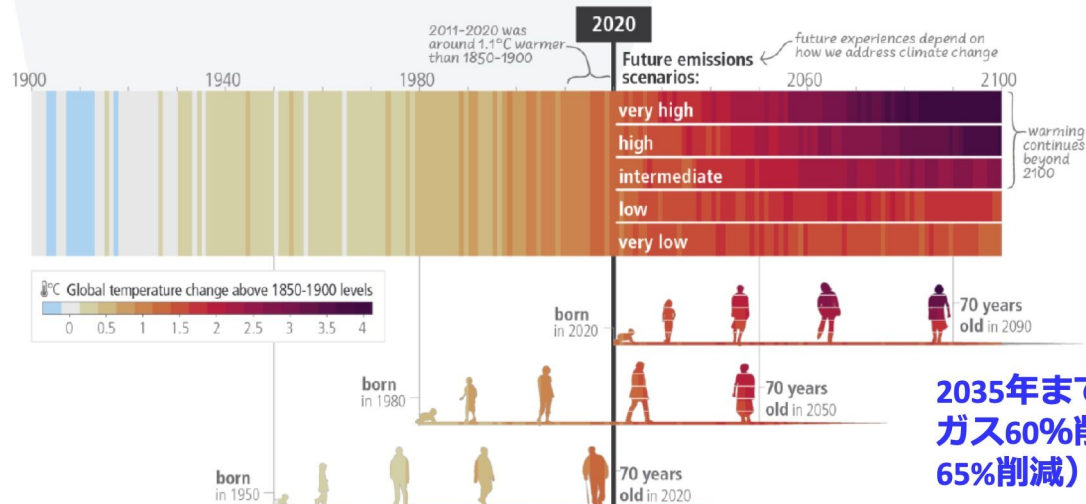
1. 少子高齢人口減少社会⇨人生100年時代の社会
⇨人生のステージ転換の必要
 2. 経済的な「変われなさ」⇨経済の停滞
 3. 人々の階層格差の拡大
 4. 人工知能の急速な発達
 5. 依存から自立・自律が求められる
 6. 認知症の急速な拡大
(2060年には総人口の13パーセントが認知症を患うとの予測も)
 7. リモート生活の拡大⇨生活の中に「働くこと」を組み込む
- 加えて、コロナ禍・激甚災害の頻発
さらに、気候変動
そして、戦争

どれだけ温暖化した地球に暮らすことになる？ それぞれの時代に生まれた人が70歳になった時の世界



若い世代が、気候変動による影響、損失や損害により強くさらされる

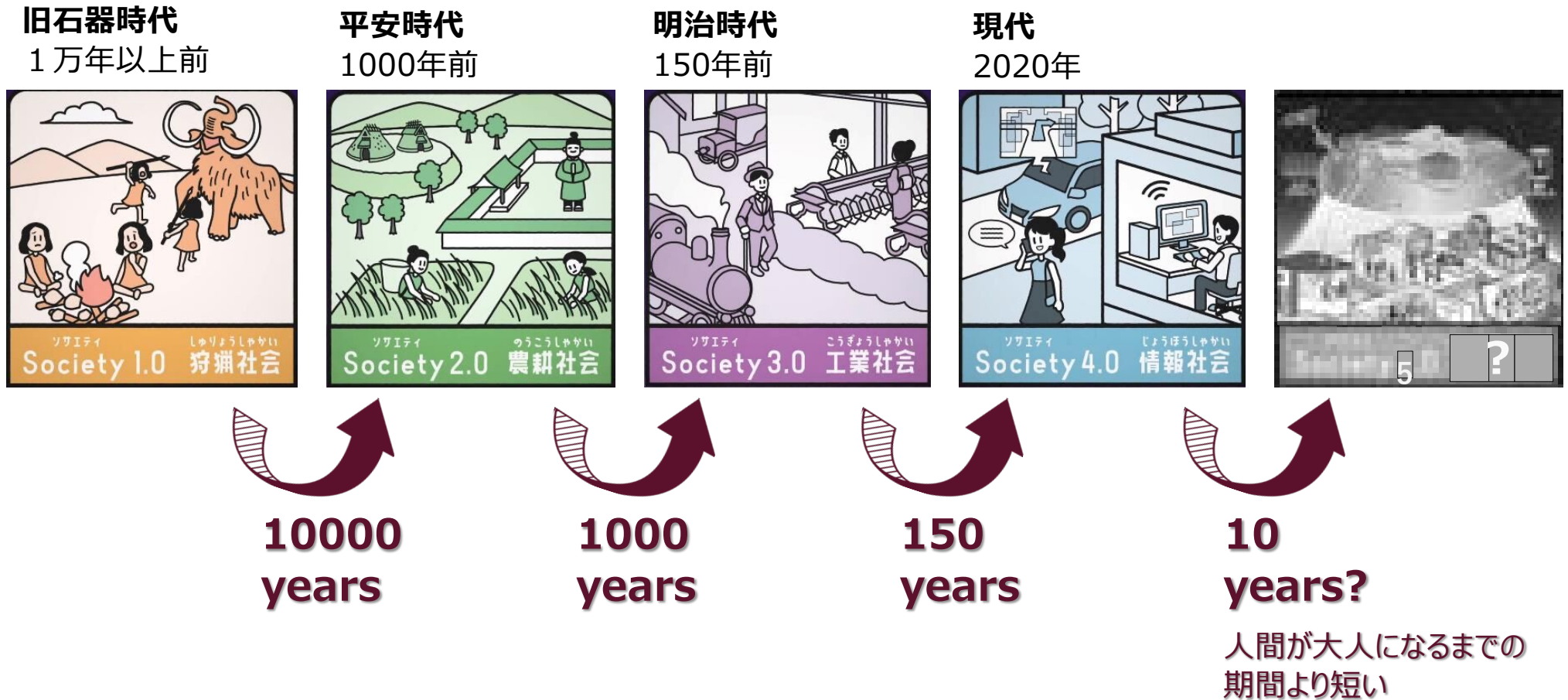
c) The extent to which current and future generations will experience a hotter and different world depends on choices now and in the near-term



2035年までに温室効果ガス60%削減（CO₂は65%削減）が必要

Rapid social change

社会の変化のスピードが速くなっている



岩岡寛人・(一社)ディレクトフォース・シンポジウム資料(20230726)より

5. 人は何が大切なのか

当事者性・プライドが
ものをいう

つながり



当事者性

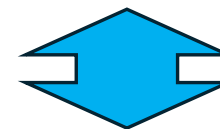
プライド

自己有用感



サービス（お客様扱い）は
当事者性・プライド・自己有用感
＝生きる意欲
を奪う暴力

問題は事件が起こる前に
起きてしまっている
それが後から露わになる



自己発見・新しい自分

Well-being

（幸せを感じられる状態にある）



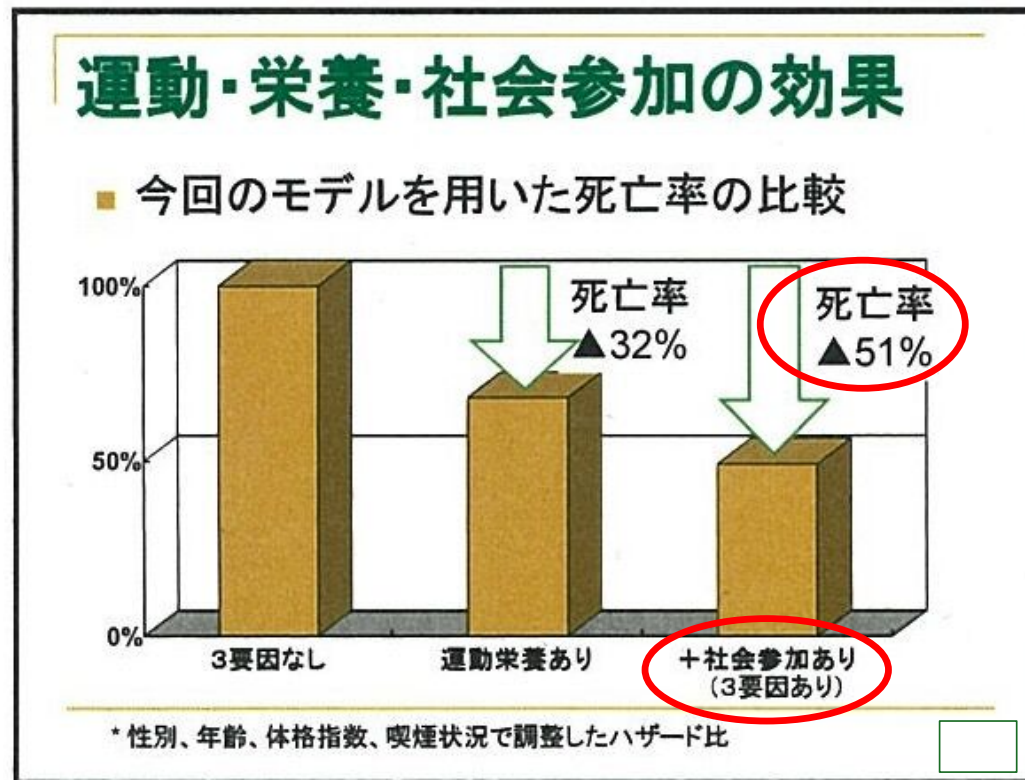
問題が起こらない社会

6. 「かかわり」が大切な社会へ

静岡県高齢者コホート研究

【高齢者14,001人の追跡結果】

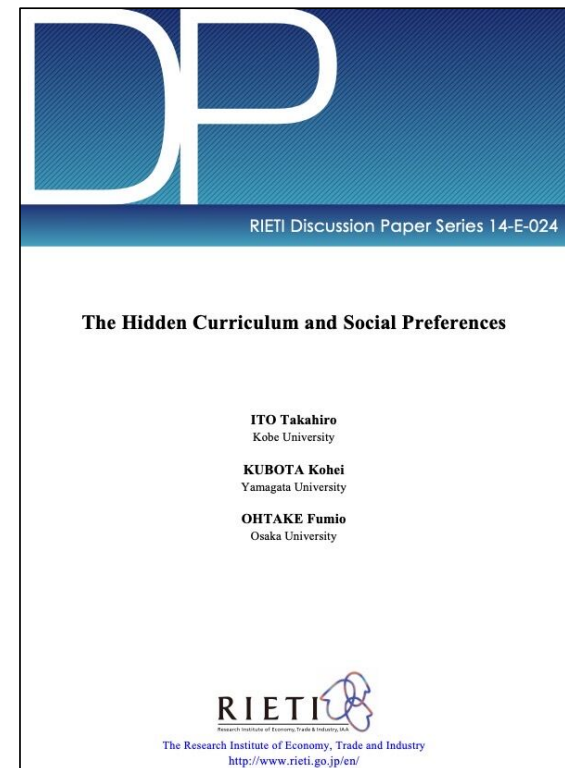
○運動・栄養について良い習慣を持つこと、更に**社会参加**により死亡率が大幅に低下



出典:「静岡県高齢者コホート調査に基づく、運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」
2012年、東海公衆衛生学会、平山朋他

小学生時代にボランティアなどの
経験を積んだ者は社会貢献意識が高まる

参加・協力を経験した子どもは、
他者のために行動することを好み、
利他性と互惠性が高まり、
他人への協力を好み、
国への誇りを持つようになる傾向がある



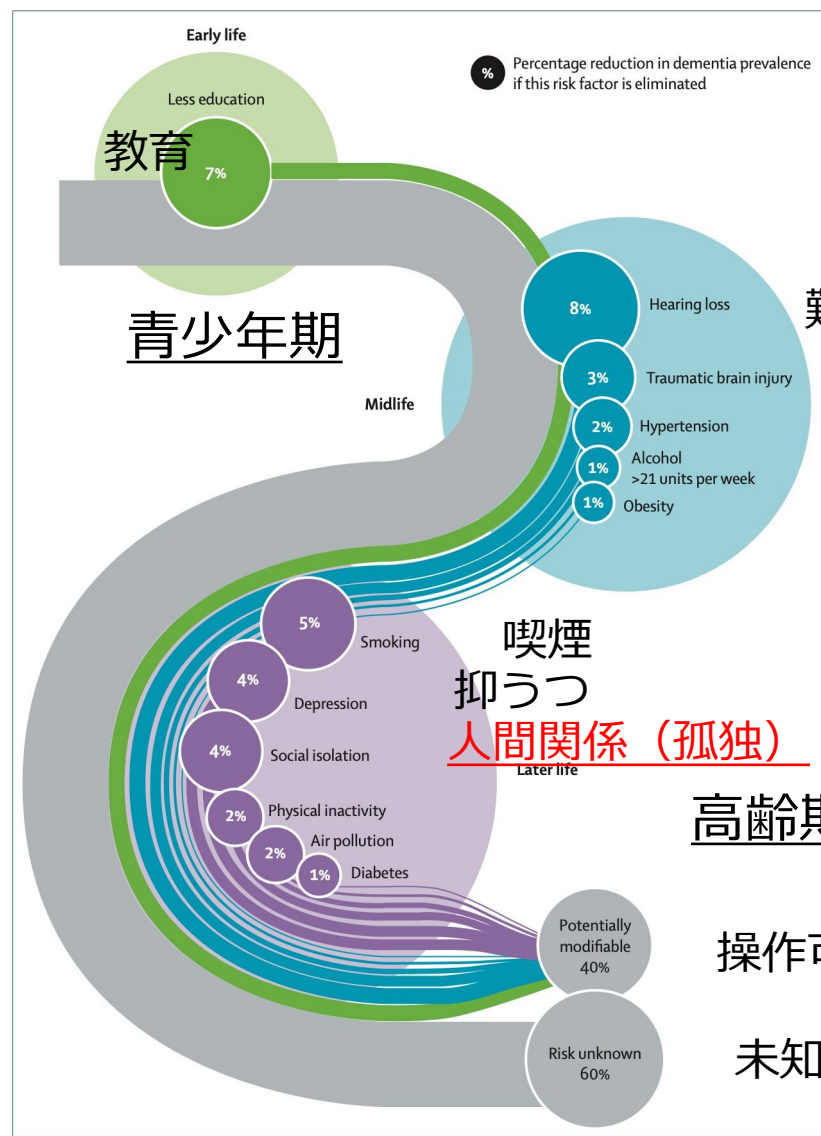


Figure 7: Population attributable fraction of potentially modifiable risk factors for dementia

認知症：
高齡期における社会関係とくに孤独が
認知症発症リスクの大きな部分を占める

Dementia prevention, intervention, and care
: 2020 report of the Lancet Commission

The Lancet Commissions
Vol 396 August 8, 2020

www.thelancet.com

人は「かかわり」の存在

人間関係の希薄化
当事者性の喪失



プライドの喪失
クレーマー化
生活の主人公としての実感の喪失



依存
自尊心の喪失

7. CompassionとWell-being (思いやり・我が事化 と 幸せを感じることに)

Compassion（共感）

Compassionate Community

**共感（という以上の深い意味が）
基本はPassion=悲しみ・苦しみ
Con(Com)=分かちあう**

**Compassionとは悲しみを分かちあうこと
相手の身になること**

Well-being

「よき状態=幸せを感じる状態」から

「よき存在=社会に位置づく自己という認識」へ

Compassionを発揮して、「よきこと」をしないではいられなくなる

⇒「よき存在」Well-beingになる

社会そのものがWell-beingになる

⇒Compassionate Community（共感的コミュニティ）

要求するだけでなく、与えあうこと

自ら動く「自治」

⇒社会基盤・人間関係を耕す営みとしての社会教育

その基盤の上で個人が開花する生涯学習

⇐教育こそが、社会を牽引する駆動力の中核的営み

人生100年・複雑化する社会で生涯学び続ける力をつける

8. GenerativityとTranscendence

(次世代への関心・かかわり と 老年的超越)

Generativity

(次世代にかかわりたくなる自然な傾向性)

Geriatric Transcendence

(老年的超越：目先の利害を離れて、深い宇宙へとつながる)

**⇒この社会での役割を十全に果たす
満足して最期を迎える**

⇒CompassionとWell-being

9. 地域コミュニティの交差点をつくる

都市部の空き家を開放する

「住み開き」：

自分の空間をちょっと開いて、公共空間にする

(財)世田谷トラストまちづくり：

「地域共生のいえ」

岡さんのいえTOMO



定期的な居場所をつくる / 開いてるデーカフェ & 駄菓子屋



「草の根」から〈社会〉をつくる
⇒ 〈ちいさな社会〉をたくさんつくる

「共通善」＝「よきこと」を人と人との間に埋め込む

人と人との関係を「耕す」

＝〈学び〉

10. まちを交わりの場にする

—誰にでも価値がある共生のコミュニティへ—

新しい発想で：アートを重ねる

(沖縄県那覇市若狭公民館)





こども食堂



移動図書館／那覇市立若狭図書館



パーソナルサポートセンター



まちづくり協議会・小学校・PTA

地域主体で 活動継続



コロナ禍における屋外での地域交流企画として月に一回開催



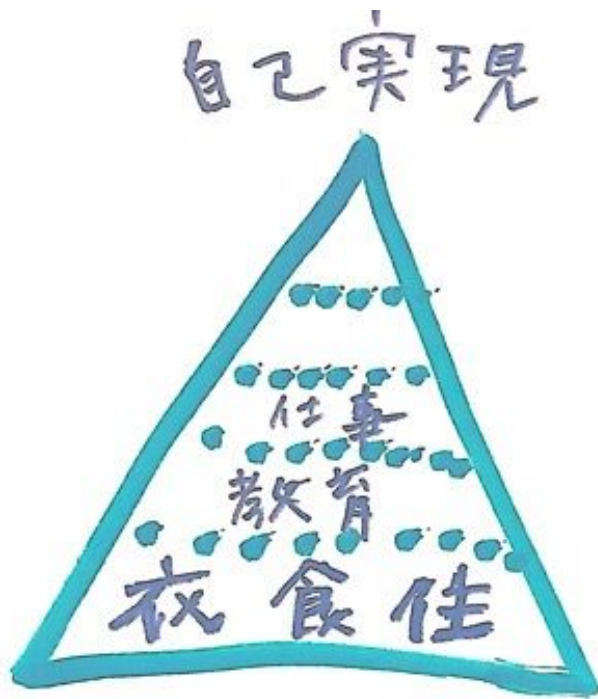
「草の根」から〈社会〉をつくる
⇒ 〈ちいさな社会〉をたくさんつくる

「共通善」＝「よきこと」を人と人との間に埋め込む

人と人との関係を「耕す」

＝〈学び〉

11. 「はまる」と、「動く」 **人間観・社会観を変える**



マズローの法則

Maslow's Law



ジグソーモデル

Jigsaw-puzzle model

上田假奈代氏提供資料

12. PDCAからAARへ 方法論を変える

「生態の倫理」の実践と同じ

A: Anticipation

R: Reflection

Anticipation : 予期する・予測する
⇒何か「楽しいこと・うれしいこと」
を考えてウキウキする

Action : やってみる

Reflection : 振り返る
⇒評価しない
振り返って、さらにAnticipation
どんどん多様になる

A: Action

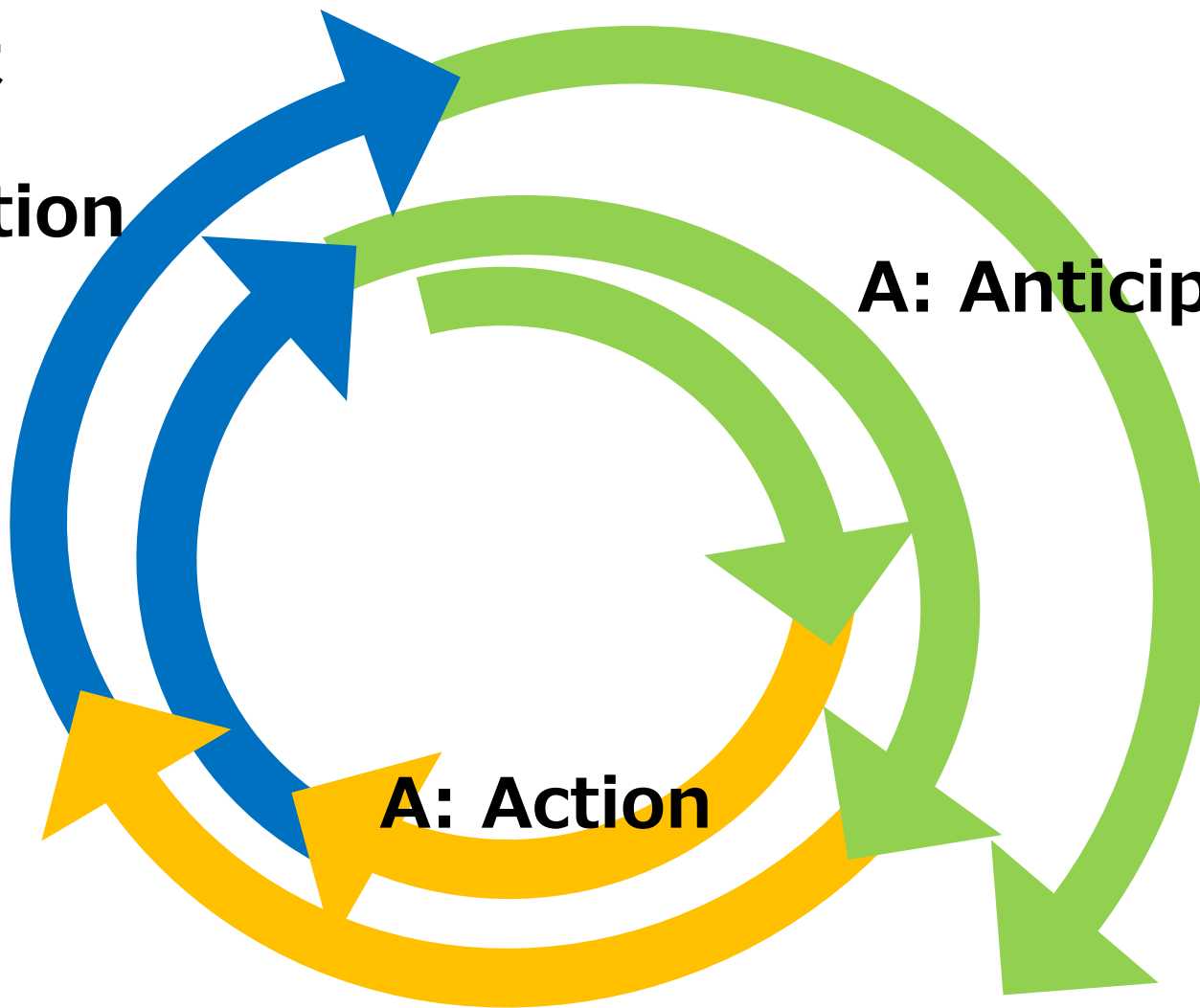
参考 : OECD Learning compass 2030
https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/learning-compass-2030/in_brief_Learning_Compass.pdf

実際は

R: Reflection

A: Anticipation

A: Action



13. FOR ALLの上にBY ALLへ 担い手論を変える

全員が当事者になる

**自分を尊重してもらえる
相手を尊重している**

信頼感と想像力

**重層的コミュニティ自治の基盤としての
想像力と信頼**



Compassion

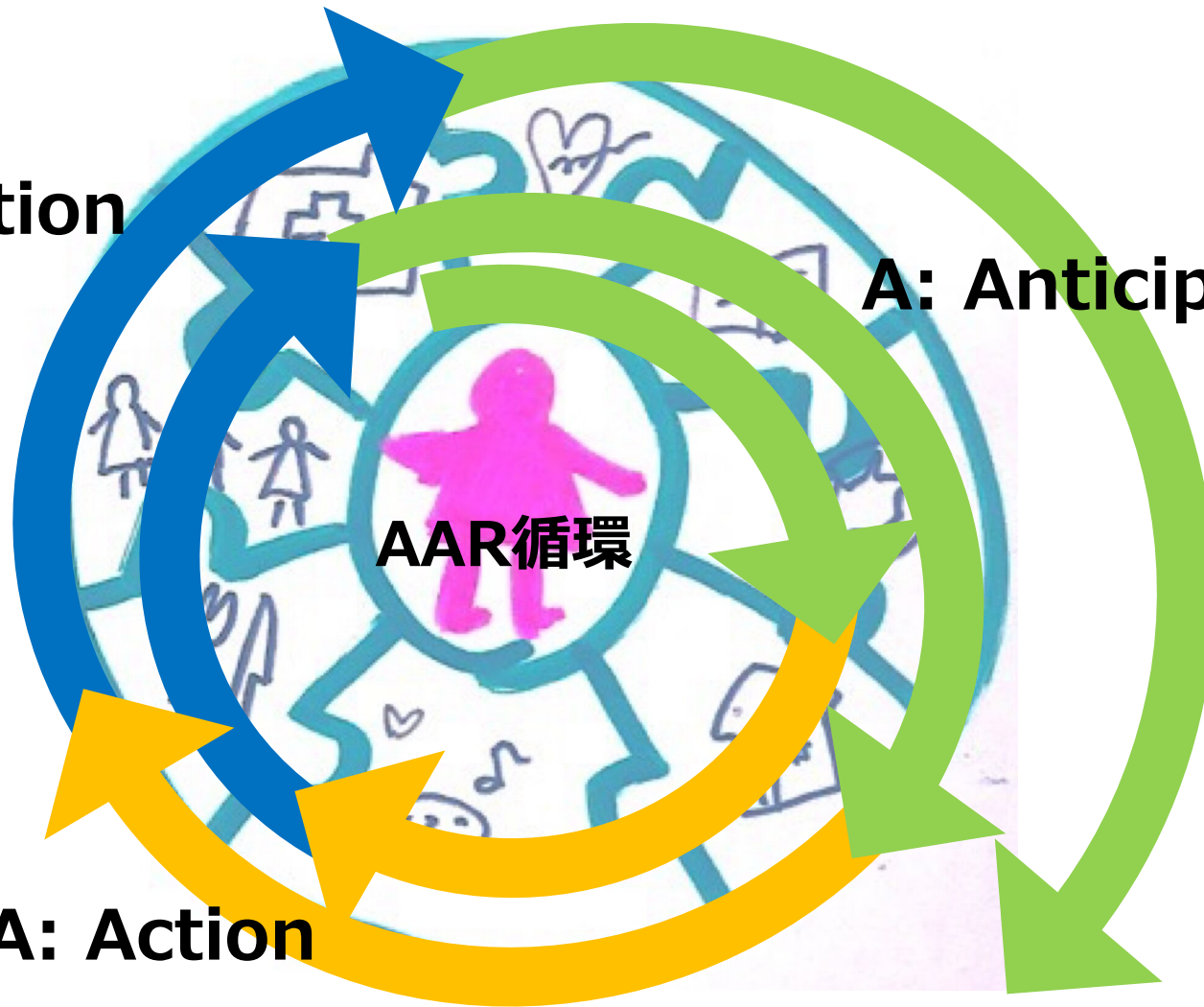
AARの代謝関係へ

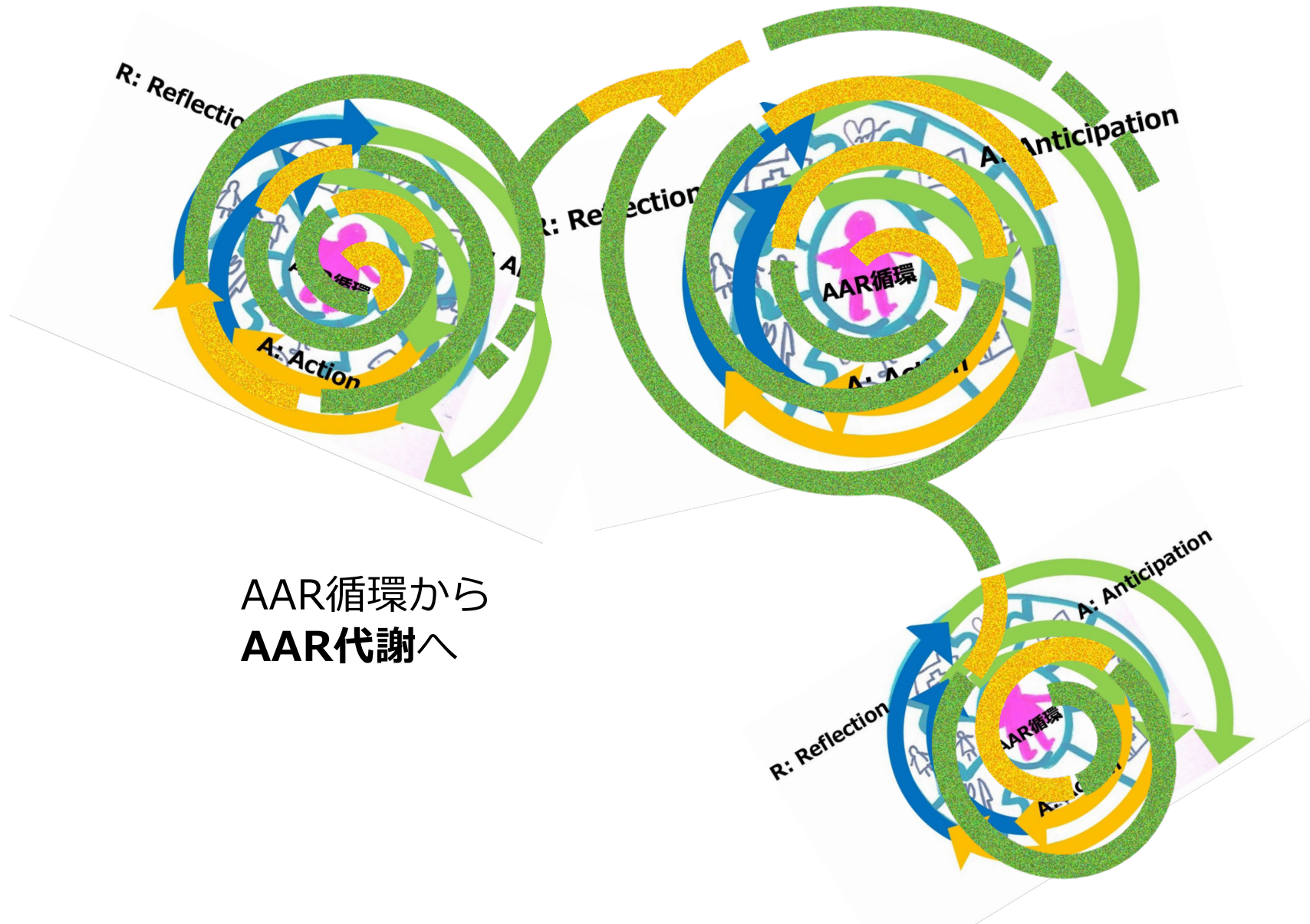
R: Reflection

A: Anticipation

AAR循環

A: Action





Well-being

Compassionを発揮して、「よきこと」をしないではいられなくなる

⇒「よき存在」Well-beingになる
社会そのものがWell-beingになる

⇒Compassionate Community（共感的コミュニティ）
要求するだけでなく、与えあうこと
自ら動く「自治」

⇒ともにコミュニティを当事者としてつくることへ

14. 不完全さが「制約要件」になる？

不完全プランニング：かかわり代を残す

⇒計画された不完全さ？

不完全さの設計に囚われないか？

不完全であることが定義されてしまわないか？

それは新しい「完全」なのではないか？

宝楽@泉北のまちと暮らしを考える財団

「20年間市民社会は止まっていたのではないか？PTAも、自治会も、NPOも、同じ場所ですつまずいている」

三つの「あいだ」（新しい三間）

①人と人のあいだ。

思いのある人と、力を貸せる人。困っている人と、支えられる人。同じ団地に住んでいても、この二人は放っておくと出会いません。

②制度と現場のあいだ。

行政の言葉と、暮らしの言葉は、翻訳が必要です。制度からこぼれる困りごとを拾い、制度に届く形に変換する。

③日常と危機のあいだ。

平時の世間話が、災害時の安否確認になる。ふだんの接点を、いざという時の備えとして設計しておく。

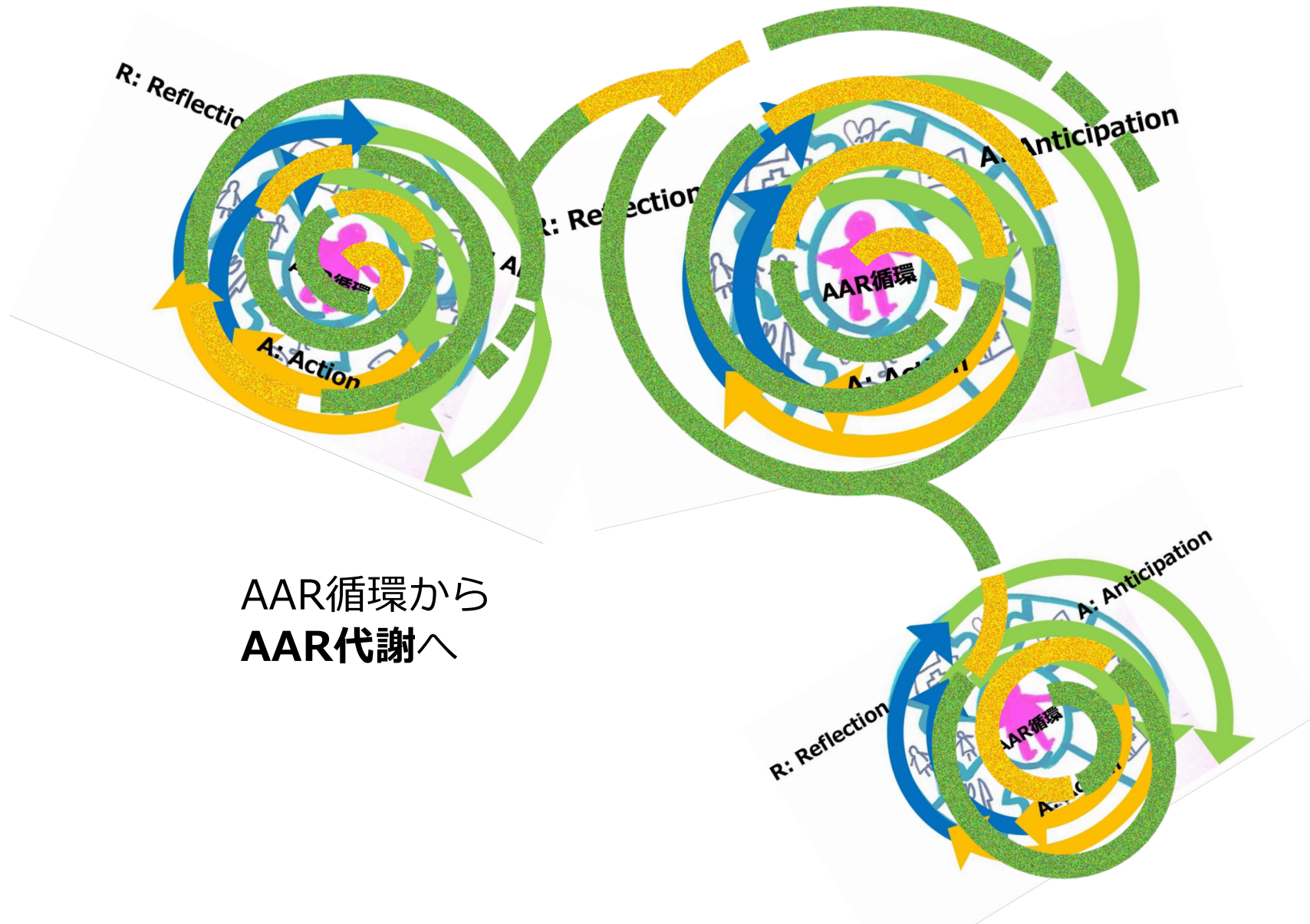
https://note.com/lovesemboku/n/n22b176fcfa48?fbclid=IwY2xjawUZfupwZG9mAWV4dG4DYWVtAjEwAGJyaWQRMGJOUXJvUWk4T0V3SjBHTlIzcnRjBmFwcF9pZBAyMjIwMzIxNzg4MjAwODkyAAEe2n5WZiDKXfUij8xSnpEjgoJkhObTa8a6hW0GN53Czokdw8EHU8-puyRF_Gl_aem_EIX0tHwbR-yCkc1atcnEdw#2ec51d85-e5c8-4152-aff9-494138fbc6a3

宝楽@泉北のまちと暮らしを考える財団

「20年間市民社会は止まっていたのではないか？PTAも、自治会も、NPOも、同じ場所ですまづいている」

1. 課題は「配る」な。「一緒に見つけろ」
2. 建物で待つな。日常に出ろ
3. 参加の階段を、設計しろ
4. お金の話から、逃げるな
5. 自分の現場を、持て

https://note.com/lovesemboku/n/n22b176fcfa48?fbclid=IwY2xjawUZfupwZG9mAWV4dG4DYWVtAjEwAGJyaWQRMGJOUXJvUWk4T0V3SjBHTlIzcnRjBmFwcF9pZBAyMjlwMzIxNzg4MjAwODkyAAEe2n5WZiDKXfUij8xSnpEjgoJkhObTa8a6hW0GN53Czokdw8EHU8-puyRF_Gl_aem_EIX0tHwbR-yCk1atcnEdw#2ec51d85-e5c8-4152-aff9-494138fbc6a3



AAR循環から
AAR代謝へ

「はまコミる」：飯田市公民館実践によるAAR連鎖運動の解釈

人とのよい関係に「はまる」
と、コミュニケーションが生まれる
と、身体が動いて、やってみたくなる、やってみる
と、もっとよい関係に「はまる」
と、もっとコミュニケーションが生まれる
と、．．．．．永遠に楽しさに駆動され続ける
と、コミュニティが変化し続ける

15. Be-ingであることでDo-erになる

Be-ing であることで Do-er になる

Do-er : やる人・つくる人

Do-erが自治をになう



地元食材を使って新たな商品作りにトライする
明誠高校生徒！

Compassion

Generativity

Transcendence

Well-being

「ふるさと」をつくる
「ふるさと」に生きる

社会に「信任」をつくる

「よきこと」をつなげ

次の世代にかかわることで

老年的超越が起こり

「よき存在」となり

それが「よきこと」の連鎖
＝ジグソーパズル型AAR連鎖運動
が起こり

「よき社会」が生まれる

「つながり」をつくる？

「つながりたい存在」？

「つながらざるを得ない状況におかれている」？

「つながってしまっている」ことを分断してきたのでは？

**本来的に「つながってしまっている」ことを
どうWell-beingにつなげるのか？**

本来的にCompassionであるはず

ちいさなしあわせを重ねあう

「信任」がAARを起動し、人々を巻き込み、連鎖運動を駆動する

**人生100年時代を生きぬく
「学び続ける実践」を**